

新型コロナウイルスワクチン 5～11 歳について



新型コロナウイルスが日本に上陸してから 2 年以上が経過しました。当初小児には感染しにくいウイルスでしたが、オミクロン株の登場で状況が一変し、10 歳未満が感染者の最も多い年齢層となってきています。家族内感染のみでなく、学校や保育園での感染が増え、クラスターも多くなっています。幸い軽症が多いことはこれまでと変わりなく、ほとんどの小児では経過観察か対症療法で十分です。しかし少数ではありますが、肺炎や、心筋炎、心膜炎、川崎病に似た症状の小児多系統炎症性症候群になるお子さんがいます。また、高齢者に感染させてしまうことも問題となります。またさらに少数ではありますが、我が国の小児でも人工呼吸器管理を要した例や死亡例がでています。

12 歳以上ではワクチン接種がすすみ、2 月始めの時点で津山市では 2 回接種を終了した人の割合は 12 歳以上の 86%、65 歳以上では 92%、12～19 歳でも 72%に及んでいます。3 回目接種も順調に進み、3 月始めの時点で高齢者の 6 割が 3 回目接種を完了しています。このような中でワクチン接種対象外であった 11 歳以下の年齢層での感染が急増しているわけです。



ようやく 11 歳以下のワクチンが 3 月中旬から開始されました。気になるのは小児にも効くのか？ 副反応はどうか？ そもそも必要なのか？ ではないでしょうか。すでに 5～11 歳のワクチン接種がすすんでいる欧米のデータがあります。

◆有効性について； 5～11 歳でも抗体価は十分に上昇し、2 回接種 7 日以降の発症予防率は 90.7%でした。

◆副反応について； 局所反応としては、接種部位の発赤 14%（16-25歳：16%）、腫脹 10%（8%）、接種部位の痛み 74%（83%）とほぼ同様です。一方発熱 6%（17%）、頭痛 28%（61%）、筋肉痛 12%（41%）、関節痛 5%（22%）と全身性の副反応は若年成人より小児の方が 1/3 程度の少なさでした。

◆必要性について；多くの小児は軽症ですんでいます、少数ですが基礎疾患のないお子さんでも重症化し、死亡例もでていることを考えますと接種を考慮してよいと思われれます。特に基礎疾患のあるお子さんは積極的に接種を考慮ください。家にお年寄りや 4 歳未満の乳幼児がいる場合は、家族の感染防止の意味も大きいと思います。また、今後、オミクロン株と異なった性質の変異株がでてくる可能性もあるように思います。

5～11 歳のワクチンは成人用とは別の小児用があり、1 回 10 μg で成人の 1/3 の量です。成人と同様に 3 週間以上あけて 2 回、上腕に筋肉注射します。小児科医院など多くの施設で接種可能ですので予約をしてから受けてください。接種券の他、母子手帳も忘れずに持参ください。他のワクチンと異なり、同時接種はできず、他のワクチンとは 2 週間（13 日間）あけることが必要です。ワクチンで第 6 波を早く終わらせたいですね。



津山中央病院小児科 梶 俊策

お問い合わせ先：津山市こども保健部健康増進課

TEL 0868-32-2069